

WebOTX アプリケーション開発ガイド

WebOTX アプリケーション開発ガイド

バージョン: 8.1

版数: 第 2 版

リリース: 2008 年 9 月

Copyright (C) 1998-2008 NEC Corporation. All rights reserved.

目次

1. Developer's Studio	3
1.1. Webサービスアプリケーション	3
1.1.1. ビジネスロジックが読み込めない	3
1.1.2. エラーコード 11001 で異常終了する	3
1.1.3. エラーコード 11003 で異常終了する	3
1.1.4. エラーコード 18002 または 16001 で異常終了する	3
1.2. Webアプリケーション	5
1.2.1. Webプロジェクトに右クリックで実行支援ライブラリの追加ができない	5
1.2.2. WARファイルをインポートするとタスクにエラーが表示される	5
1.2.3. HTML/JSPファイル作成時にブラウザが起動してしまう	8
1.2.4. JSPコンパイル後、プロジェクトが削除できない	9
1.2.5. JSPコンパイルができないプロジェクトがある	9
1.2.6. XDoclet(webdoclet)実行時に、Webアプリケーション開発プラグインで作成したListenerやFilterの定義がweb.xmlから消える	9
1.3. EJBアプリケーション	11
1.3.1. XDocletが設定不正の場合の処理	11
1.3.2. プロジェクトにJREが欠けている場合の処理	12
1.3.3. プロジェクトにTarget serverが欠けている場合の処理	14
1.3.4. サーバからの公開に失敗してしまう場合の処理	16
1.3.5. EJBの生成エラー	17
1.3.6. 配備記述子を変更したが、[RunXDoclet] または、[クリーン] を実行すると ejb-jar.xmlが書き換わる	18
1.3.7. アーカイブを作成して配備を実行すると、「EJB コンパイラからの致命的なエラー」が発生する	20
1.4. コネクタアプリケーション	21
1.4.1. アイテムマップ/電文情報クラス生成ウィザードのオープンエラー	21
1.4.2. 電文情報クラスが生成されない	21
1.5. アノテーションエディタ	22
1.5.1. 何のカテゴリも選択されなくてもアノテーション・ビューに一覧されたアノテーション	22
1.6. ESB	22
1.6.1. サービスアセンブリプロジェクトの互換性留意事項	22

1.Developer's Studio

WebOTX Developer's Studio を使って開発している時に問題があった場合には、この章の内容を確認してください。

1.1.Web サービスアプリケーション

1.1.1.ビジネスロジックが読み込めない

配備記述子は正しく定義されていますか？

WAR や EJB-JAR 形式のビジネスロジックを読み込ませるときならば、配備記述子が存在するか確かめてください。また、その内容が正しいか確かめてください。EJB-JAR ファイルの場合、ステートレスセッション Bean が含まれており、Remote インタフェースが定義されている必要があります。

アーカイブ内部のディレクトリ構成とパッケージ構成は合っていますか？

クラスに定義したパッケージとアーカイブ内部のディレクトリ構成が一致しないと読み込めません。

デフォルトパッケージのクラスではありませんか？

パッケージに属さないデフォルトパッケージのクラスの読み込みには対応していません。パッケージに属したビジネスロジックを読み込ませてください。

プロジェクトビルドは成功していますか？

Eclipse のプロジェクトビルドが成功していないプロジェクトは読み込むことができません。それは、ビジネスロジックとして指定したプロジェクトが参照するプロジェクトについても同じです。Ant を使ってビルドしている場合などで Eclipse のプロジェクトビルドが成功しない場合は、一旦アーカイブを作成し、それをビジネスロジックとして指定してください。

1.1.2.エラーコード 11001 で異常終了する

WebOTX ホームディレクトリの設定を確認してください

Web サービス作成ウィザードでこのエラーで異常終了する場合、メニューからウィンドウ | 設定で起動する設定画面の「WebOTX」の設定で、WebOTX ホームディレクトリが正確に設定されていることを確認してください。

デフォルトのソースフォルダや出力フォルダを設定していませんか？

Web サービス作成ウィザードでこのエラーで異常終了する場合、メニューからウィンドウ | 設定で起動する設定画面の Java | 新規プロジェクトの設定で、ソースフォルダや出力フォルダを設定しているところの問題が発生します。『初期設定』で説明されている通り、「ソースおよび出力フォルダ」は「プロジェクト」を選択してください。

1.1.3.エラーコード 11003 で異常終了する

tools.jar の設定を確認してください

Web サービス作成ウィザードでこのエラーで異常終了する場合、メニューからウィンドウ | 設定で起動する設定画面の WebOTX | Web サービスの設定で、J2SE SDK に含まれる tools.jar が指定されていることを確認してください。

1.1.4.エラーコード 18002 または 16001 で異常終了する

Web サービスに使用できる型か確認してください

Web サービス化しようとしているメソッドの引数、返却値に Web サービスに使用できない型が使われているかどうか確認してください。Web サービスに使用できるデータ型は 4 章プログラミング・開発にて説明しています。JavaBean や JavaBean の配列のときは、JavaBean に内包される変数の型もチェックする必

要があります。

JavaBean の規則に従っているか確認してください

Web サービス化しようとしているメソッドの引数、返却値が JavaBean や JavaBean の配列のとき、その JavaBean が規則に従っていないとエラーになることがあります。これは、Web サービス作成の過程で Web サービス化するビジネスロジックをクラスロードしなければならないために発生することがあります。

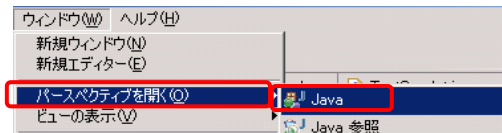
1.2.Web アプリケーション

1.2.1. Web プロジェクトに右クリックで実行支援ライブラリの追加ができない

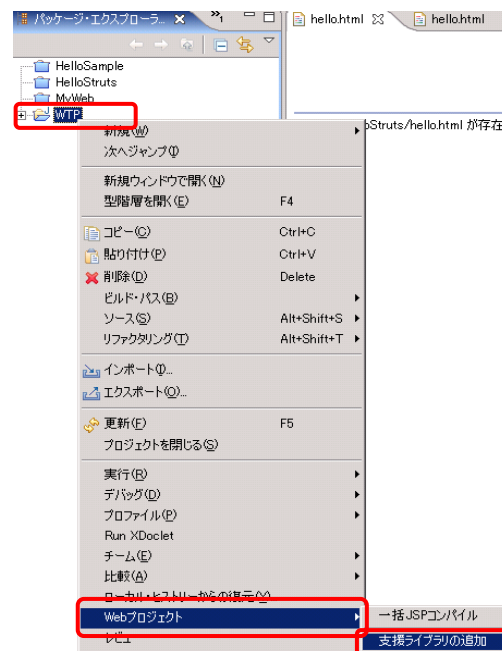
Java パースペクティブに切り替えてから右クリックメニューより「支援ライブラリの追加」を選択してください。

現在のパースペクティブが Java パースペクティブ以外、例えば J2EE パースペクティブ（プロジェクト・エクスプローラ）になっている可能性がありますので、Java パースペクティブに切り替えてから操作を行ってください。

ファイルメニューより**ウィンドウ | パースペクティブを開く**より **Java** を選択します。



プロジェクトを選択して、右クリックから **Web プロジェクト | 支援ライブラリの追加** を選択します。

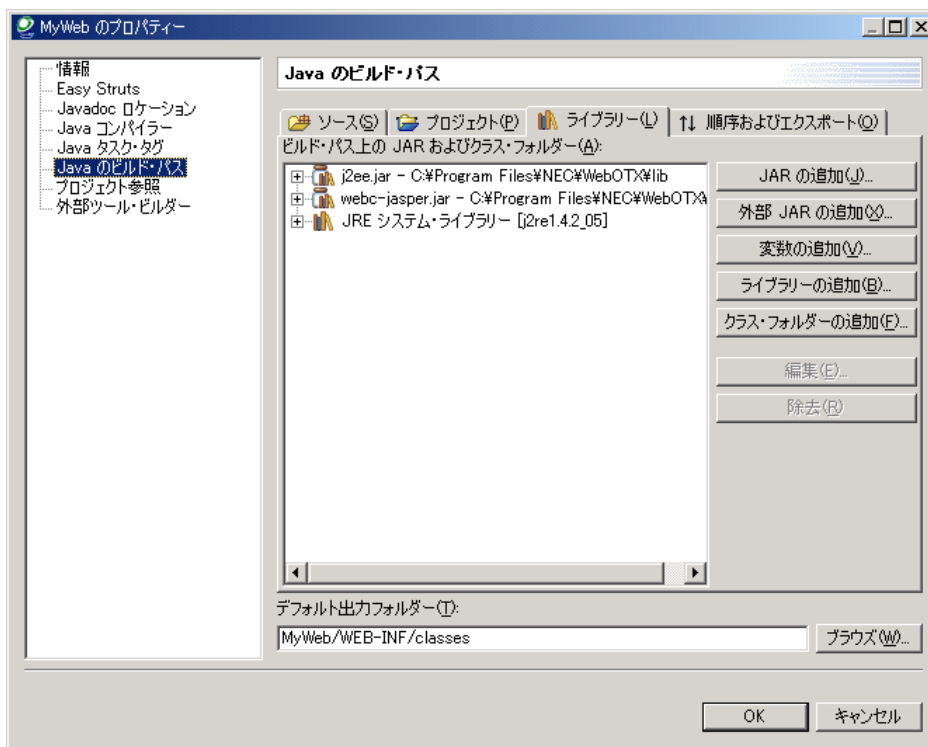
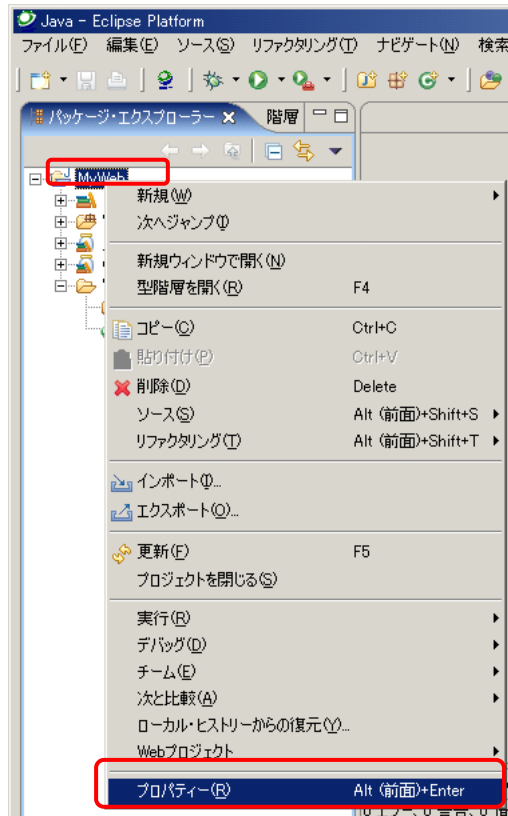


1.2.2.WAR ファイルをインポートするとタスクにエラーが表示される

プロジェクトのクラスパスを見直してください

インポートした WAR ファイル中の WEB-INF/lib 配下に JAR ファイルがある場合、クラス名の解決ができない等のエラーがタスクビューに表示されることがあります。その場合、プロジェクトのビルド・パスが正しくない可能性があります。次の手順でプロジェクトの **Java のビルド・パス**を設定してください。

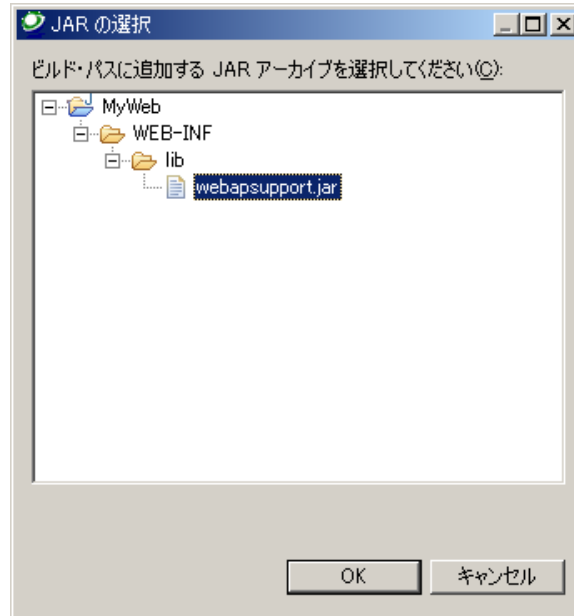
プロジェクトを選択して、右クリックからプロパティ(R)を選択します。プロパティ画面が表示されます。



プロパティ画面の左側のペインで Java のビルド・パスを選択して、右側のペインのライブラリータブを開いて、[JAR の追加(J)...]ボタンをクリックします。

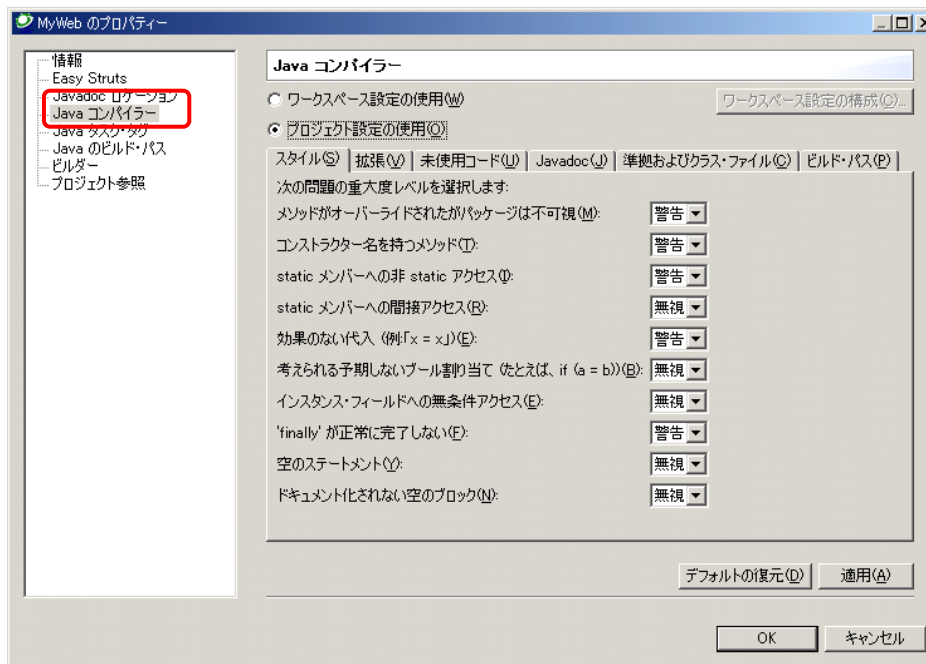
JAR 選択画面で WEB-INF/lib 配下にある JAR ファイルを選択状態にして、[OK] ボタンをクリックします。

プロパティ画面に戻って、[OK] ボタンをクリックします。



Java コンパイラーの設定を見直してください

Java のビルド・パスを設定しても、タスクビューのエラーが解消されない場合、Java コンパイラーの設定が厳しい可能性があります。この場合、下記プロパティ画面の Java コンパイラーで設定を行ってください。

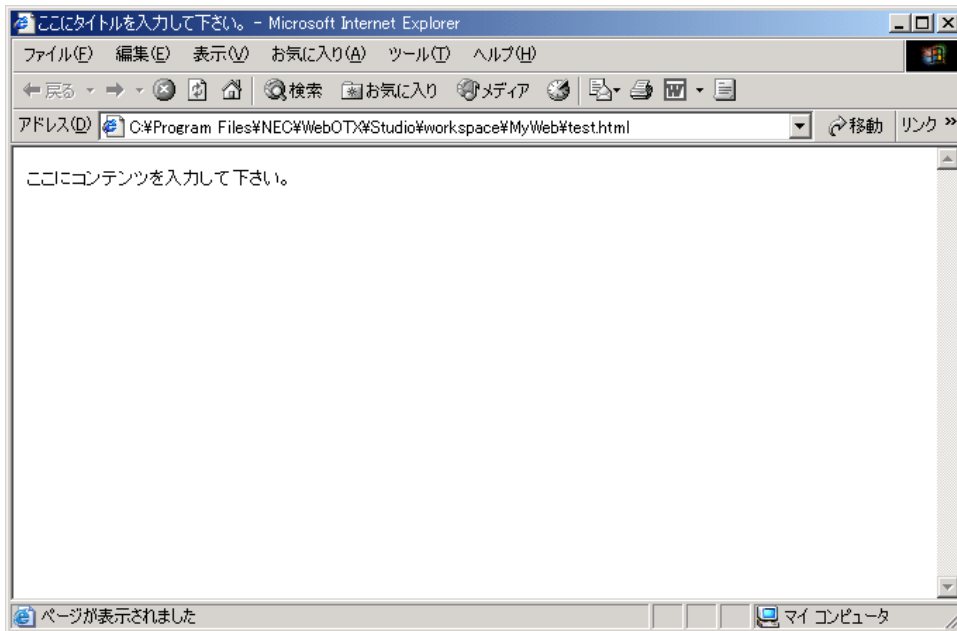


Java コンパイラーの設定を見直してもエラーが解消されない場合、既存 Java ソースの修正を行う必要性が考えられます。インポートした Java ソースを見直してください。

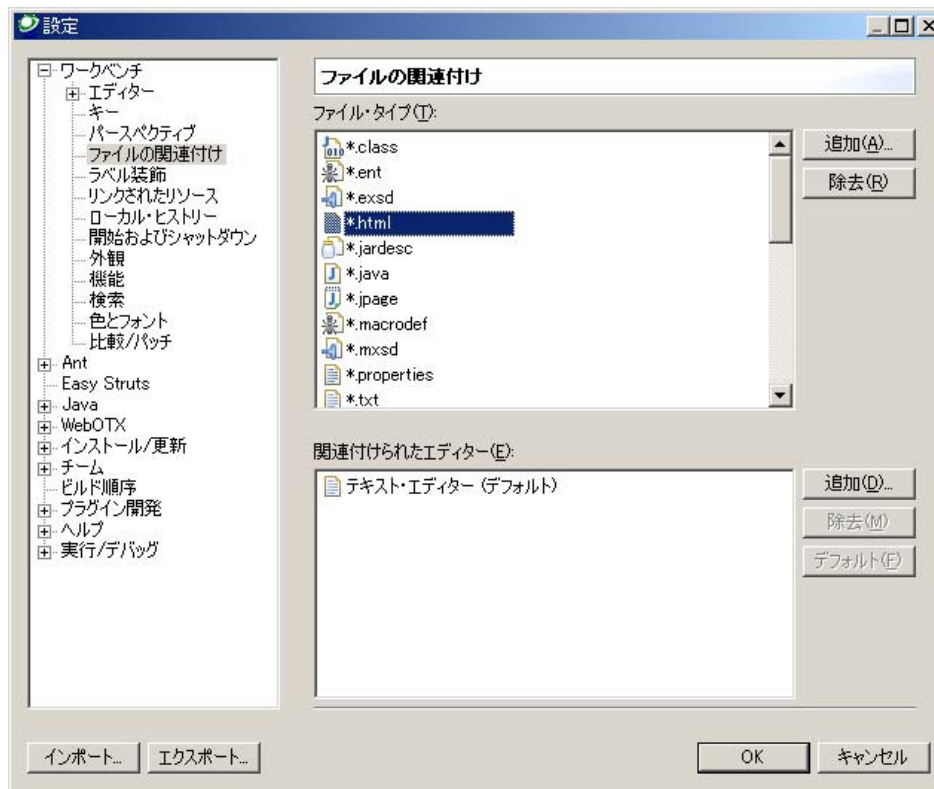
1.2.3.HTML/JSP ファイル作成時にブラウザが起動してしまう

ファイルの関連付けで開くエディタを選択して下さい。

HTML や JSP ファイルをウィザードにて作成した場合、Eclipse の対象ファイルの関連付けがないと、Internet Explorer 等のシステム(windows)で関連付けられるファイルが起動します。



この為、上記画面を閉じて、Eclipse の「ウィンドウ」→「設定」メニューから、左ペインにて「ワークベンチ」→「ファイルの関連付け」を選択し、右ペイン上でファイルタイプの追加と、右ペイン下で関連づけたいエディタを選択して下さい。

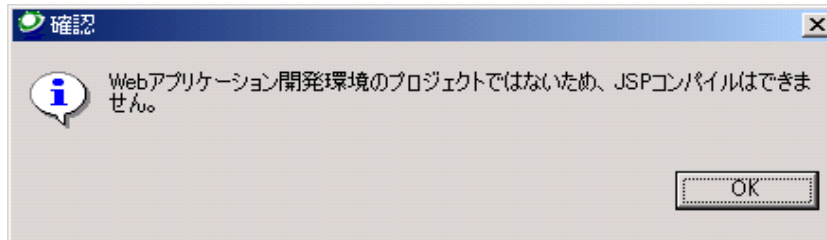


1.2.4.JSP コンパイル後、プロジェクトが削除できない

ポップアップメニューで JSP コンパイルを行った後 Web プロジェクトを削除しようとした際にプロジェクトが削除できない場合、Developer's Studio を再起動してください。その後、プロジェクトを削除してください。

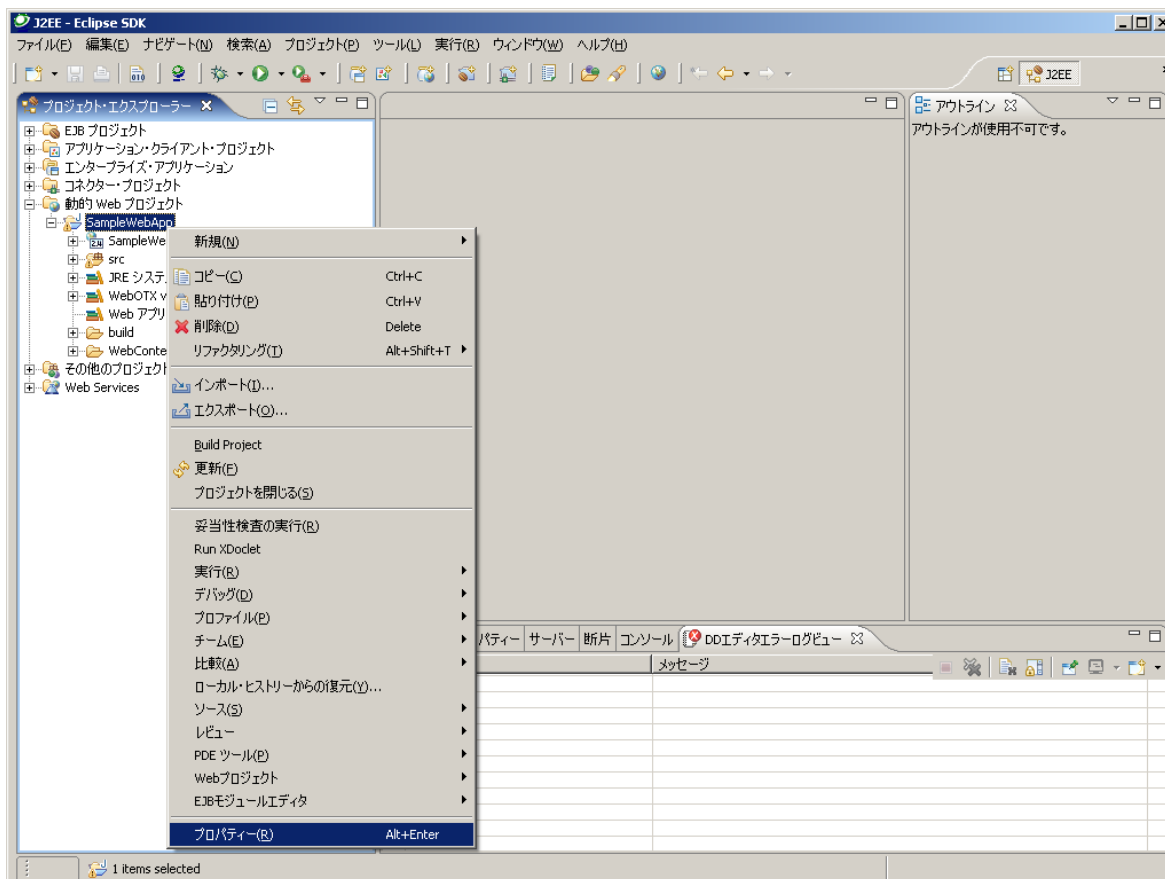
1.2.5.JSP コンパイルができないプロジェクトがある

JSP コンパイルが可能なものは V6.3 互換までの Web アプリケーション開発環境で作成したプロジェクトのみです。それ以外のプロジェクトでは JSP コンパイルはできません。

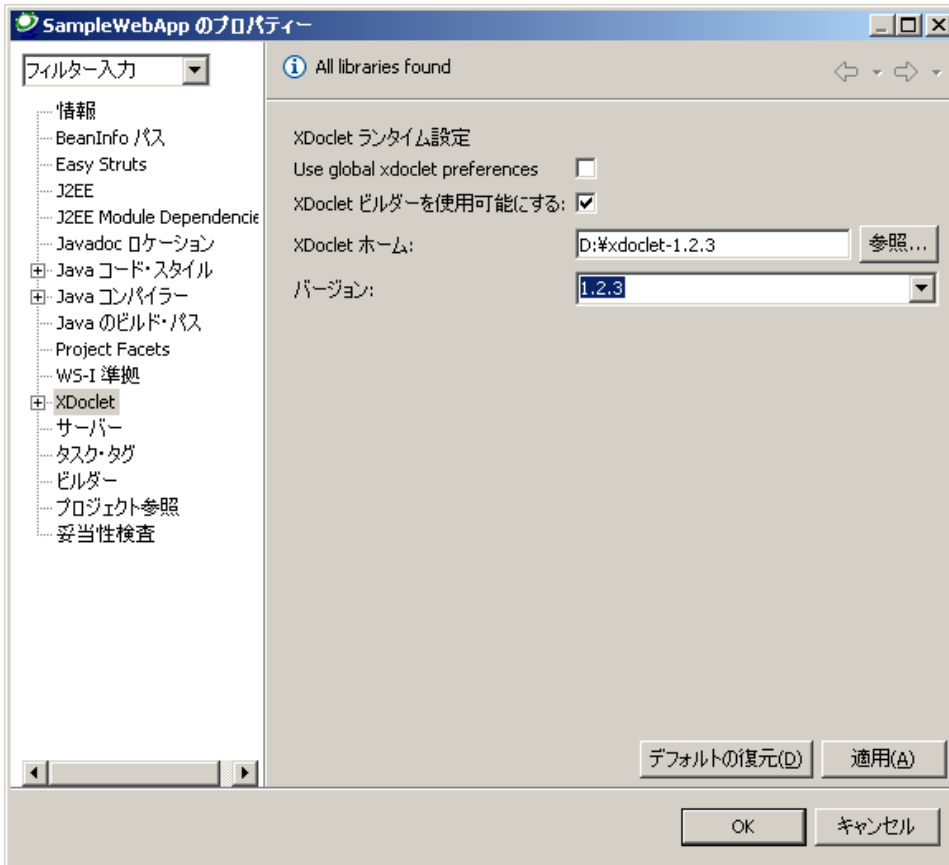


1.2.6.XDoclet(webdoclet)実行時に、Web アプリケーション開発プラグインで作成した Listener や Filter の定義が web.xml から消える

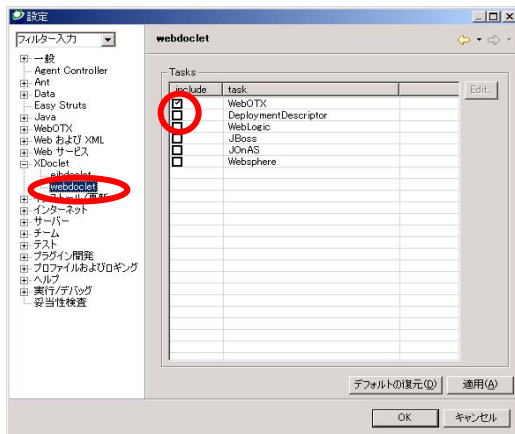
動的 Web プロジェクトのプロパティを選択します。



設定ダイアログから左ペインで XDoclet を選択して Use global xdoclet preferences のチェックを外してください。



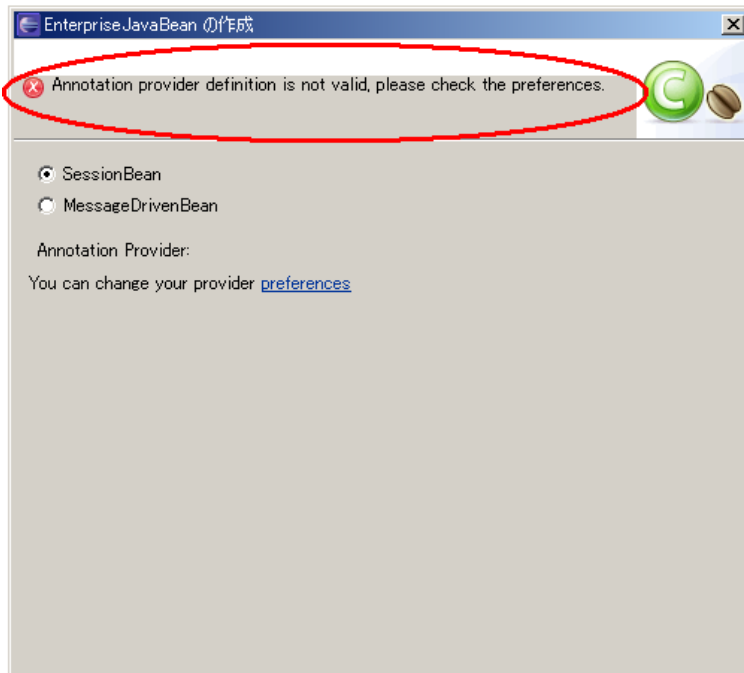
設定ダイアログから左ペインで XDoclet | webdoclet を選択して WebOTX と DepoymentDescriptor のチェックをはず(他はチェックをはず)し、[OK]をクリックしてください。



1.3.EJB アプリケーション

1.3.1.XDoclet が設定不正の場合の処理

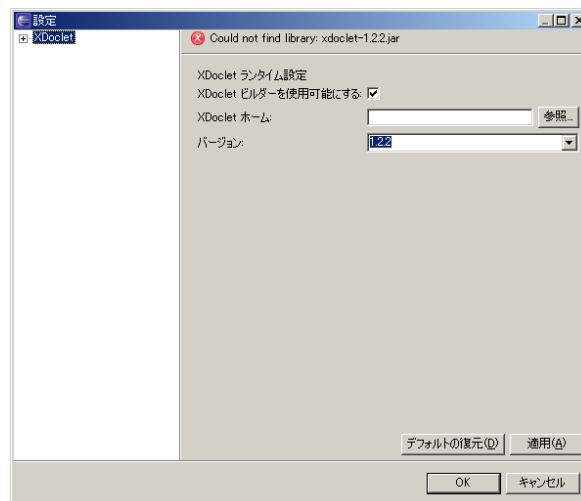
XDoclet の設定が不正の場合、EnterpriseJavaBean の作成画面で次のようなエラーメッセージが表示されます。



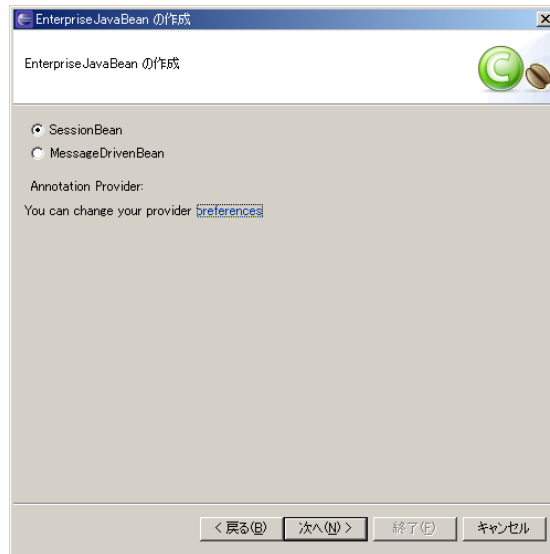
修正方法

「EnterpriseJavaBean の作成」画面で preferences をクリックし、「設定」画面が表示されます。

「XDoclet ホーム」には XDoclet のパスを入力し、「バージョン」で対応するバージョン番号を選択し、「OK」ボタンを押します。

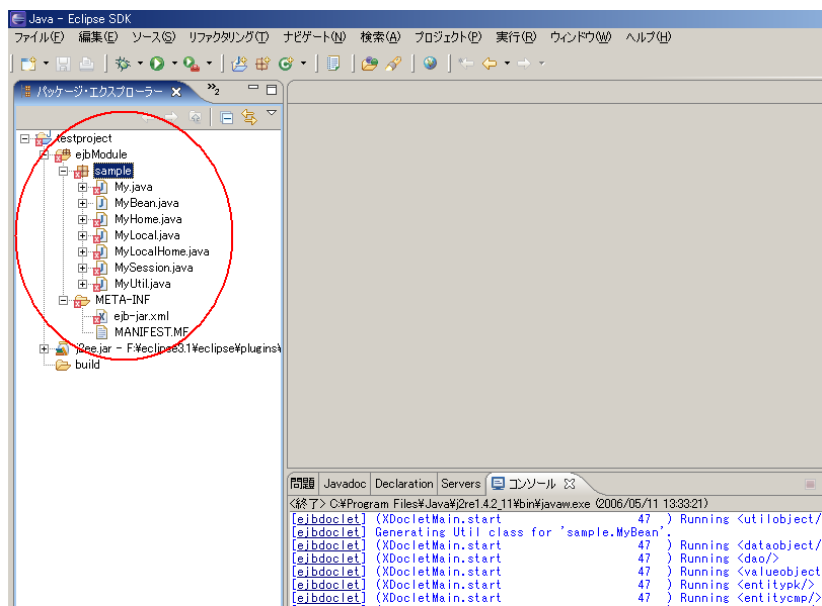


「EnterpriseJavaBean の作成」画面が表示され、エラーメッセージが消えます。



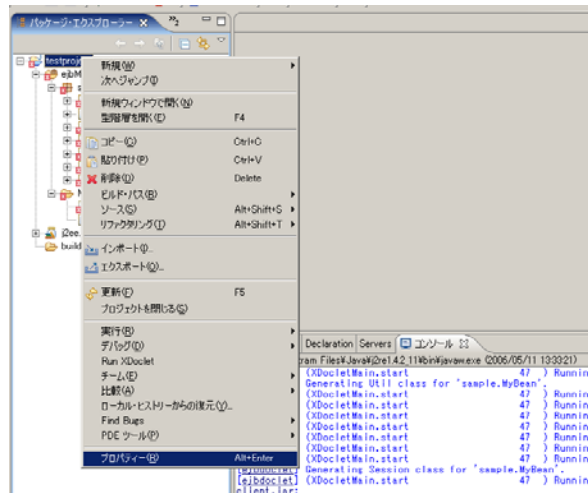
1.3.2.プロジェクトに JRE が欠けている場合の処理

プロジェクトに JRE が欠けている場合、作成したプロジェクトには次のようなエラーが発生します。



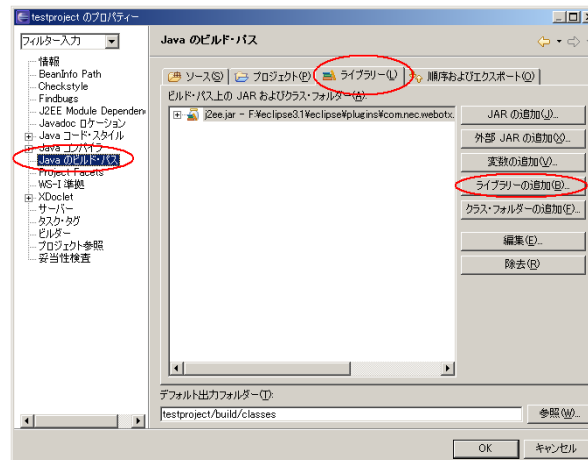
修正方法

エラーになったプロジェクトを選択し、右クリック → 「プロパティ」を選択します。



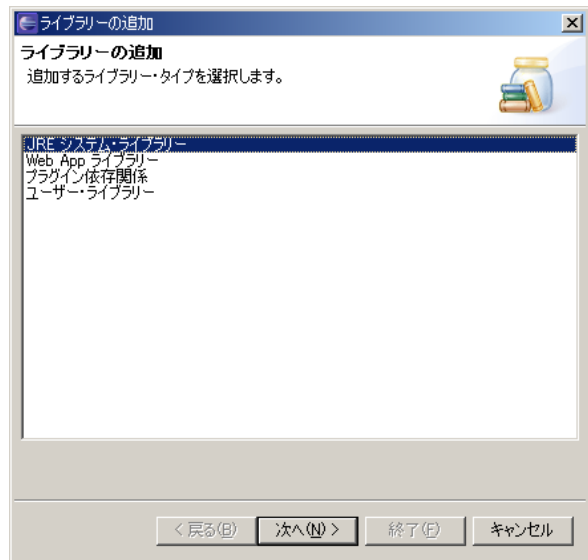
「testproject の作成」画面が表示されず(testproject はプロジェクト名です)。

「Java のビルド・パス」 → 「ライブラリ」を選択して、「ライブラリの追加」ボタンを押します。



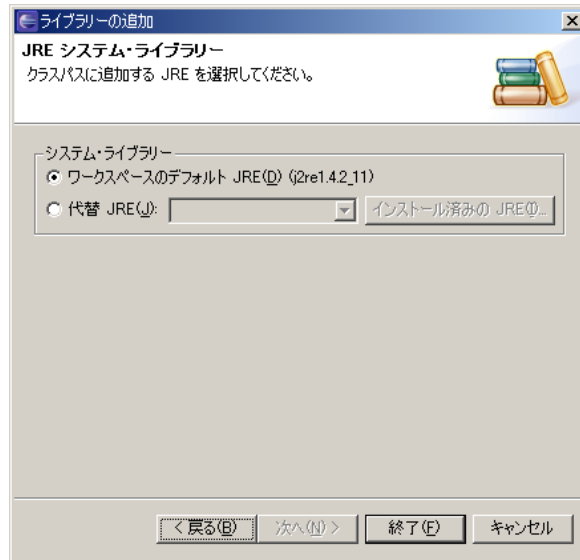
「ライブラリの追加」画面が表示されます。

「JRE システム・ライブラリ」を選択し、「次へ」ボタンを押します。



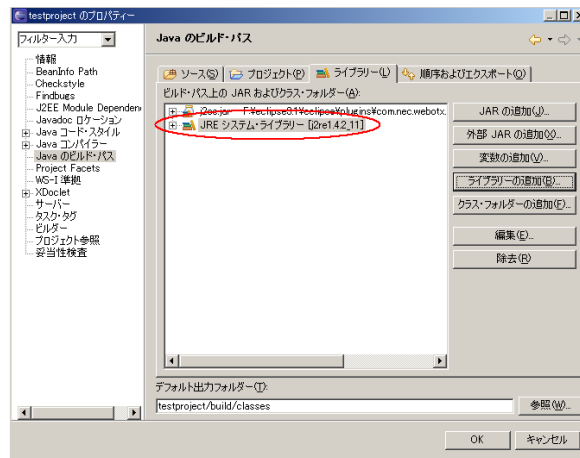
「JRE システム・ライブラリー」画面が表示されます。

JRE を選択し、「終了」ボタンを押します。

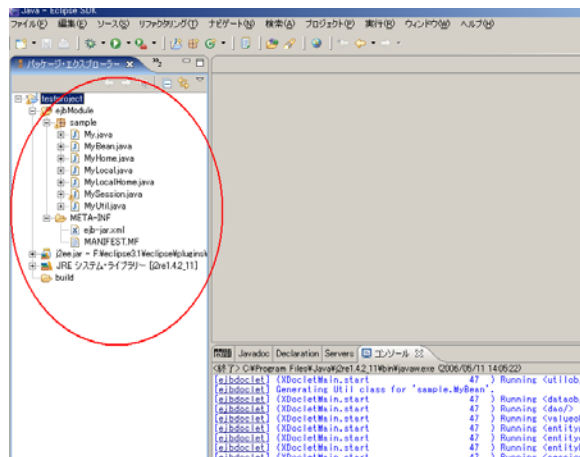


「testproject の作成」画面が表示されます。

「ライブラリー」で新規追加した「JRE システム・ライブラリー」が表示され、「OK」ボタンを押します。

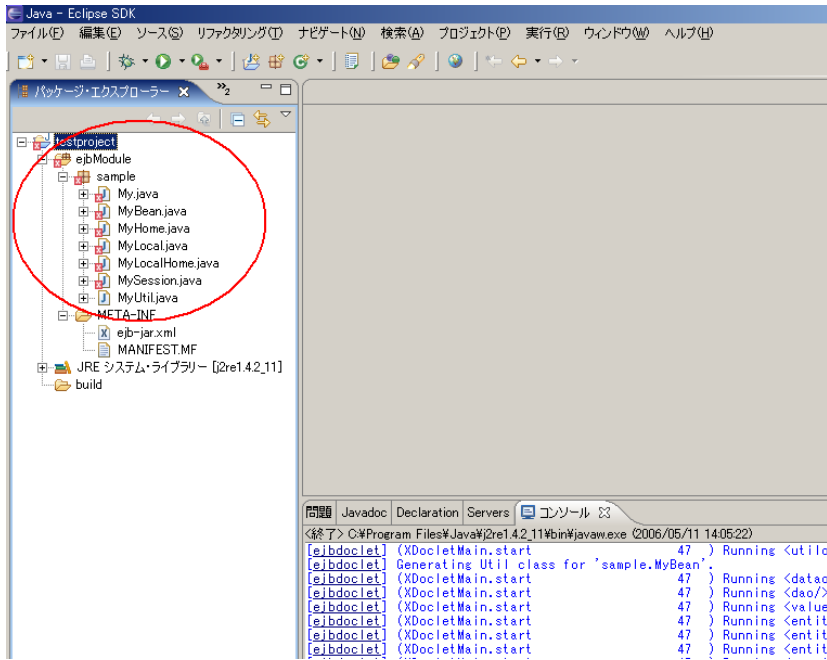


プロジェクトのエラーが消えて、プロジェクトで新規追加した「JRE システム・ライブラリー」が表示されます。



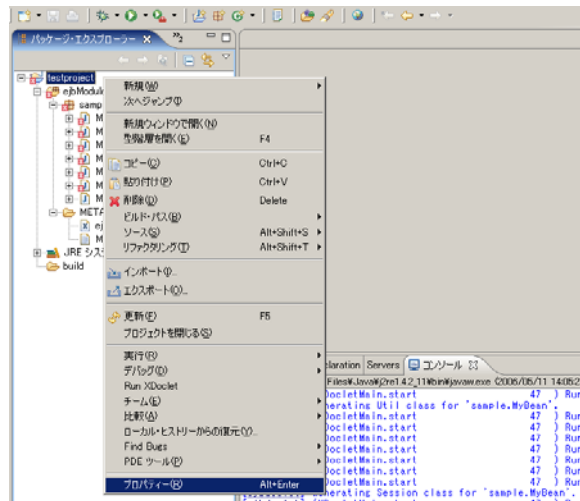
1.3.3.プロジェクトに Target server が欠けている場合の処理

プロジェクトに Target server が欠けている場合、作成したプロジェクトには次のようなエラーが発生します。



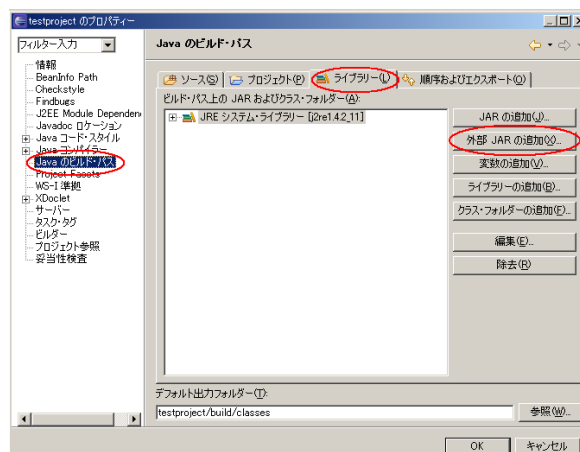
修正方法

エラーになったプロジェクトを選択し、右クリック → 「プロパティ」を選択します。



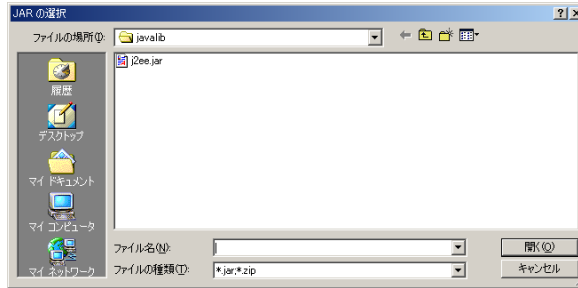
「testproject の作成」画面が表示されます(testproject はプロジェクト名です)。

「Java のビルド・パス」 → 「ライブラリ」を選択し、「外部 JAR の追加」ボタンを押します。



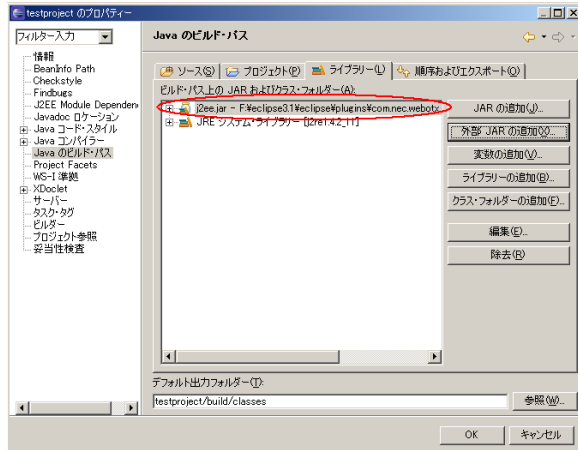
「JAR の選択」画面が表示されま
す。

j2ee.jar を選択し、「開く」ボタンを
押します。

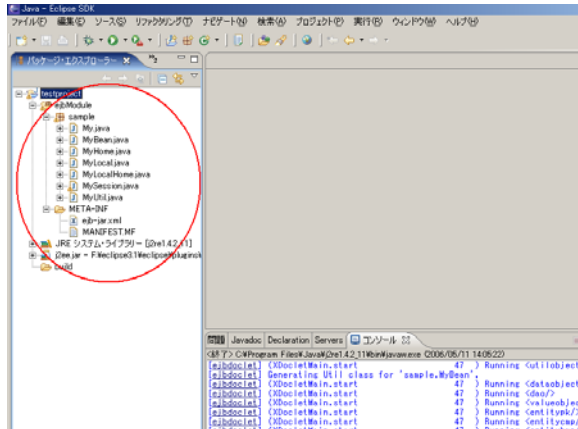


「testproject の作成」画面が表示さ
れます。

「ライブラリー」で新規追加した
「j2ee.jar」が表示され、「OK」ボタ
ンを押します。

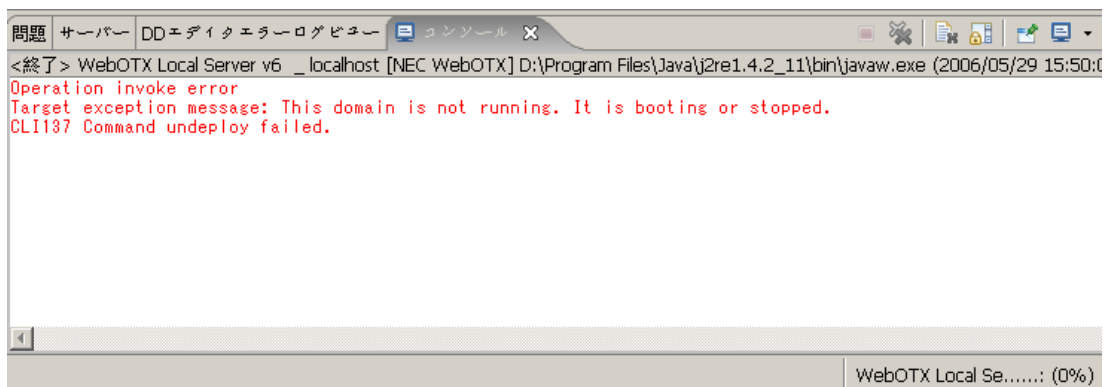


プロジェクトのエラーが消えて、プ
ロジェクトで新規追加した
「j2ee.jar」が表示されます。



1.3.4. サーバからの公開に失敗してしまう場合の処理

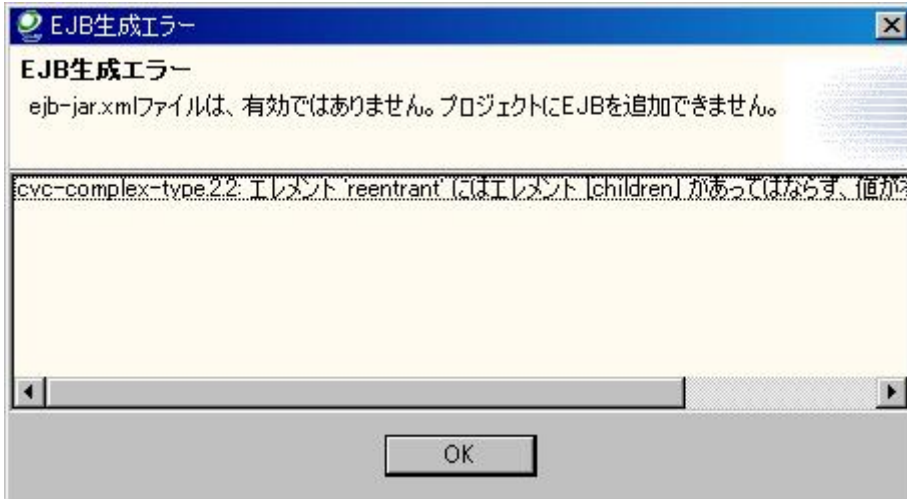
WebOTX サーバーを起動した後、すぐに配備すると、コンソールで次のようなエラーメッセージが表
示されます。



上記のようなメッセージが表示された原因とは、サーバーが完全に起動していることではないためです。しばらく、お待ちになってから、公開してください。

EJB プロジェクトが選択されているかを確認してください。

EJB 生成ウィザードの実行時に、プロジェクトの META-INF ディレクトリに ejb-jar.xml ファイルが存在しており、その ejb-jar.xml ファイルが有効でない場合や、ejb-jar_2.1.xsd のルールに合っていない場合には、次のエラーメッセージダイアログが表示されます。

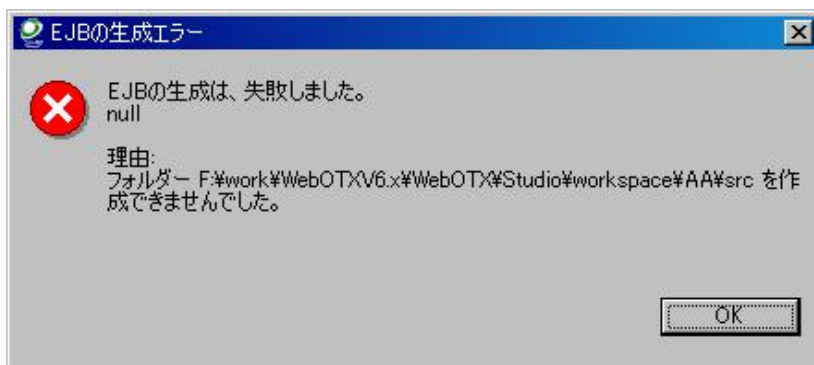


エラーメッセージに従って ejb-jar.xml ファイルを変更し、ejb-jar.xml ファイルが有効であることを確認してください。再度 EJB 生成ウィザードを実行してください。

1.3.5.EJB の生成エラー

指定したソースフォルダのアクセス許可を確認してください。

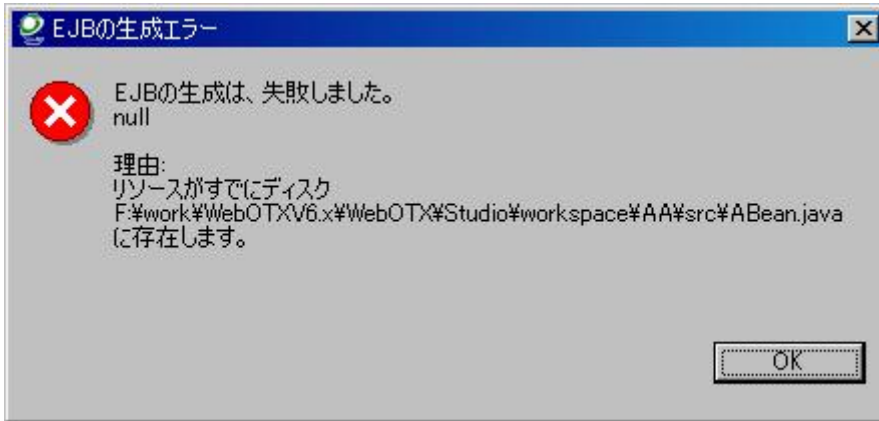
エンタープライズ Bean 作成時に、ソースフォルダーに書き込み・読み込み権が無い場合は、以下のエラーメッセージダイアログが表示されます。ソースフォルダーに書き込み・読み込み権があるかを確認してください。



同名ファイルが存在していないかを、確認してください

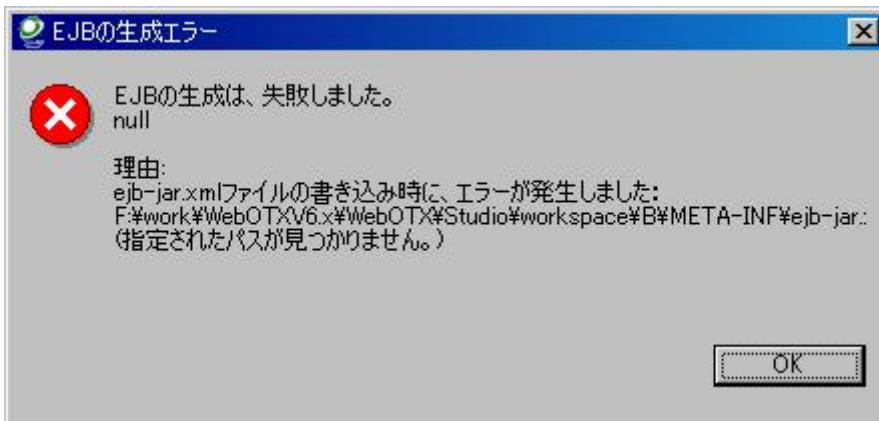
エンタープライズ Bean 作成時に、エンタープライズ Bean のソースファイル名と同じファイルが存在している場合に、以下のエラーメッセージダイアログが表示されます。

同じファイルが存在していないかを確認してください。



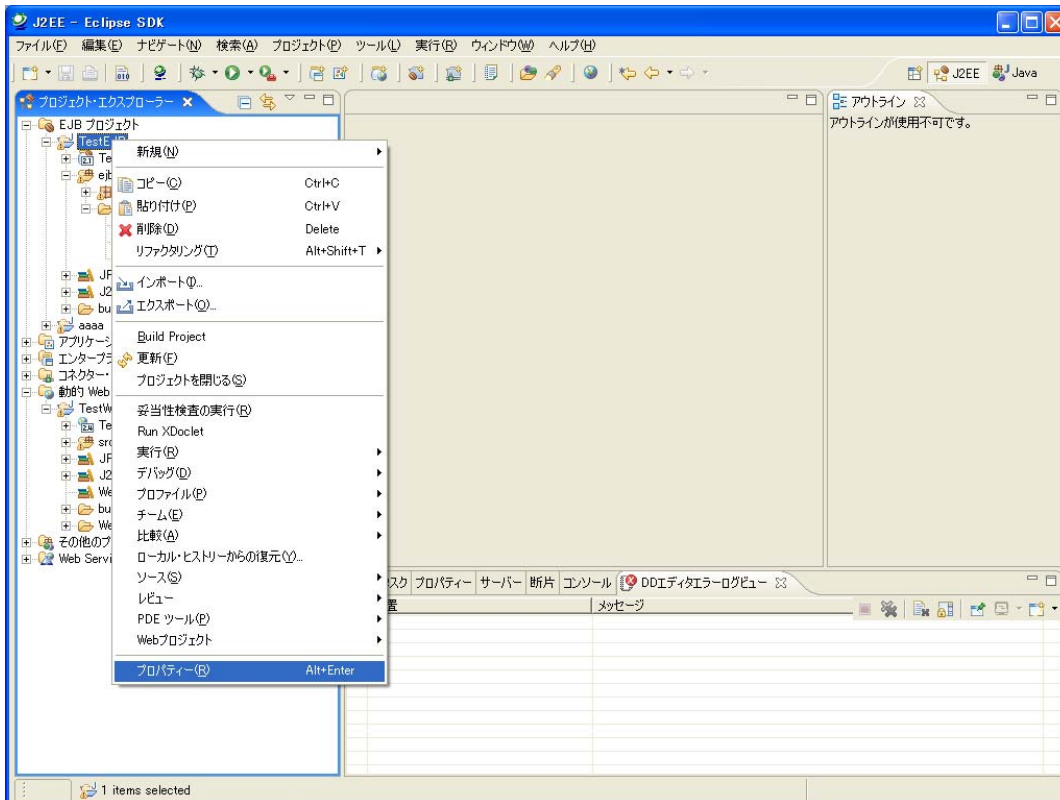
META-INF ディレクトリが存在していますか？

EJB 生成ウィザードで `ejb-jar.xml` ファイルを作成するときに、EJB プロジェクトに META-INF ディレクトリが見つからない場合に、以下のエラーメッセージダイアログが表示されます。存在する EJB プロジェクトに META-INF ディレクトリが存在するかを確認してください。

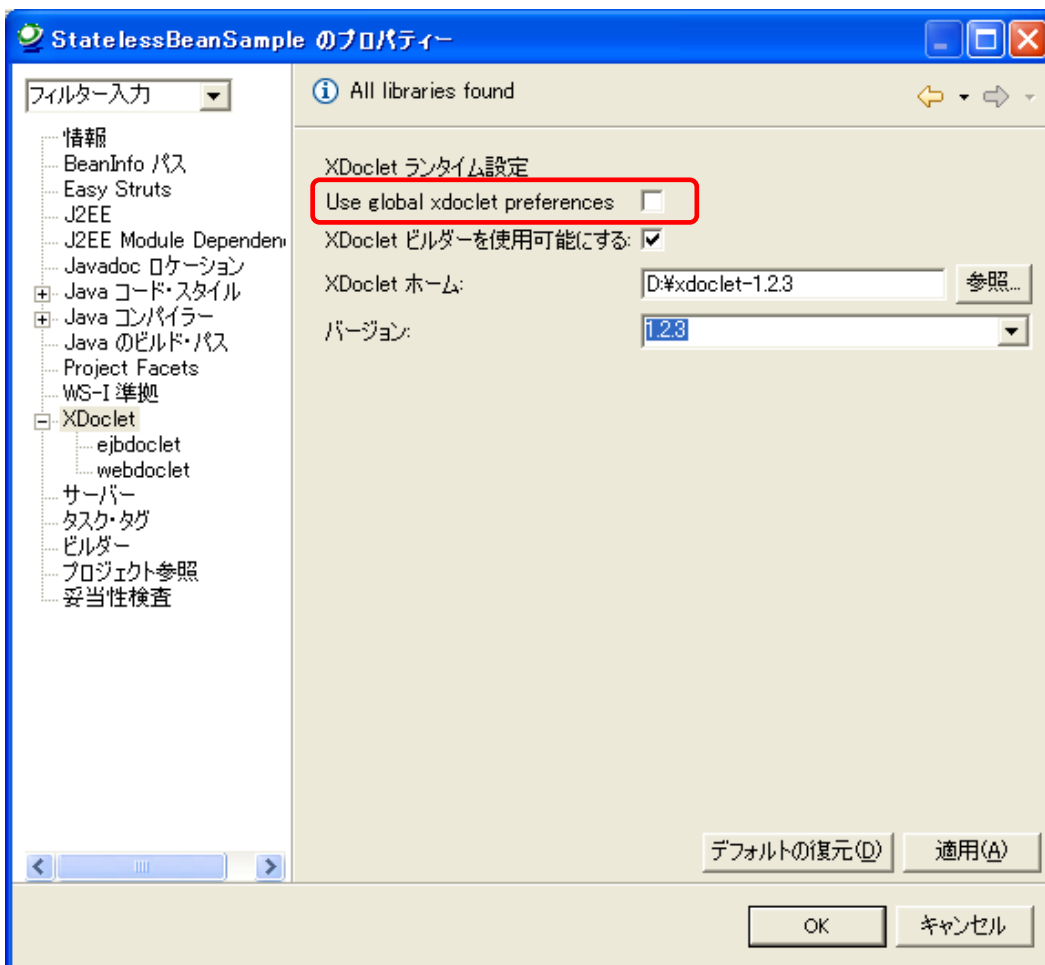


1.3.6. 配備記述子を変更したが、[RunXDoclet] または、[クリーン] を実行すると `ejb-jar.xml` が書き換わる

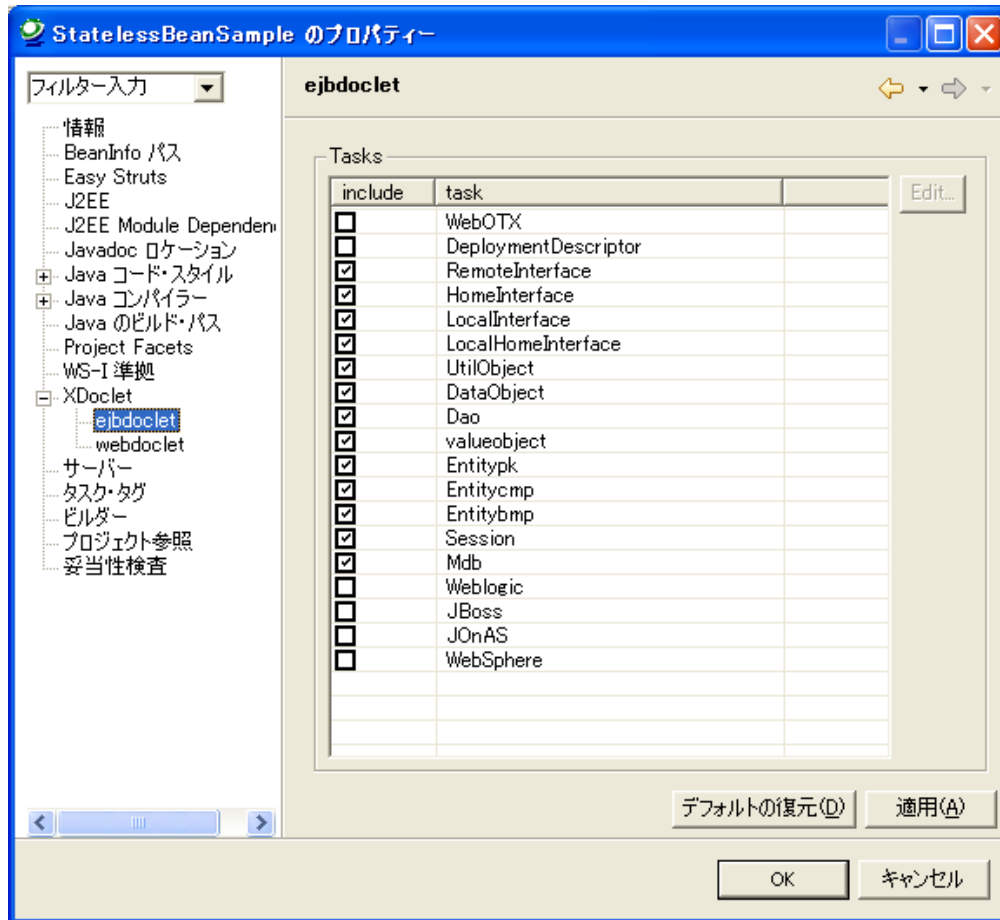
EJB プロジェクトのプロパティを選択します。



XDoclet ツリーを選択し、右画面の Use global xdoclet preferences チェックボックスをはずしてください。



XDoclet ツリーの ejbdoclet を選択し、右画面の WebOTX と DeploymentDescriptor チェックボックスをはずしてください。最後に OK ボタンを押してください。



1.3.7.アーカイブを作成して配備を実行すると、「EJB コンパイラからの致命的なエラー」が発生する

2つの原因があります。

- ・ アーカイブに nec-ejb-jar.xml が含まれていない
- ・ 配備記述子に JNDI 名が指定されていない。

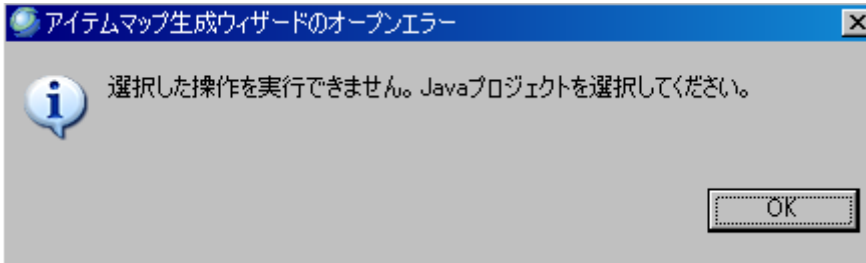
これらの現象は、アプリケーション開発ガイド第2章の設定を行っていない、もしくは正しく行っていないまま、EJB アプリケーションを作成すると発生します。

第2章の設定の見直しを行ってください。

1.4.コネクタアプリケーション

1.4.1.アイテムマップ/電文情報クラス生成ウィザードのオープンエラー

アイテムマップ/電文情報クラス生成ウィザードの実行時に、Connector Project が選択されていない場合には、以下のエラーメッセージ・ダイアログが表示されます。



アイテムマップ/電文情報クラス生成ウィザードを実行する前に、Connector Project が選択されているかどうかを確認してください。

1.4.2.電文情報クラスが生成されない

電文情報クラス生成ウィザードでレコード名を指定した場合、コピー句移行定義ファイルに定義されていないレコード名を指定していないかを確認してください。

1.5.アノテーションエディタ

1.5.1.何のカテゴリも選択されなくてもアノテーション・ビューに一覧されたアノテーション

下表でリストされるアノテーションの Target は明示的に指定されないため、全てビューで表示されます。

アノテーション名	カテゴリ	備考
javax.ejb.ActivationConfigProperty	EJB 3.0	MessageDriven アノテーションの activationConfig 属性の値だけで使用できます。
javax.persistence.ColumnResult	JPA	SqlResultSetMapping アノテーションの columns 属性の値だけで使用できます。
javax.persistence.EntityResult	JPA	SqlResultSetMapping アノテーションの entities 属性の値だけで使用できます。
javax.persistence.FieldResult	JPA	EntityResult アノテーションの fields 属性の値だけで使用できる。
javax.persistence.PersistenceProperty	JPA	PersistenceContext アノテーションの properties 属性の値だけで使用できます。
javax.persistence.QueryHint	JPA	NamedQuery と NamedNativeQuery アノテーションの hints 属性の値だけで使用できます。
javax.persistence.UniqueConstraint	JPA	Table、SecondaryTable、JoinTable、TableGenerator アノテーションの uniqueConstraints 属性の値だけで使用できます。
javax.xml.bind.annotation.XmlNs	XML	XmlSchema の xmlns 属性の値だけで使用できます。

1.6.ESB

1.6.1.サービスアセンブリプロジェクトの互換性留意事項

SOAP BC と XSLT SE のサービスユニットは V7 以前と互換性がありません。

V7 以前のバージョンで作成されたサービスアセンブリプロジェクトを V8 の Developer's Studio にインポートする場合、上記コンポーネントのサービスユニット定義は再作成が必要となります。